



救世軍

救世軍國際的見解表明

祖先崇拜



祖先崇拝についての見解表明

祖先との関係についての文化的理解は幅広いものです。救世軍は、神だけが礼拝されるべきである、ということを宣言します。救世軍は、父、子、聖霊なる神—守り、祝福し、慰めることができる神を信じます。イエス・キリストは、わたしたちと神との仲保者です。クリスチャンは、神に全く信頼することができます。したがって、死者をなだめるため、また祖先を崇拝するため、または先祖の仲介者となってもらったり、守ってもらったり、などの助けを求めることを否定し、何者にも、どのような種類の供物くもつや犠牲をも捧げることを、救世軍は容認できないことを宣言します。

この見解表明は、祖先崇拝に解決策を求める人人の慣習に焦点を当てています。わたしたちは、死者へ抱く悲しみが、ごく自然なプロセスであることを認識しています。しかし、それが、祖先崇拝となることを受け入れることはできません。救世軍人は、当然のことながら、わたしたちの先達せんだつの人生に対する感謝と名誉を、神に対して示します。



見解表明の背景と状況

祖先崇拜は世界中の多くの文化で見られるものです。祖先崇拜は以下のようなものを含む場合があります。

- 祖先の霊には力があり、贈り物や供物、犠牲を捧げて崇拝すれば、現在生きている親族、未来に生まれる子孫に影響を与え、幸運をもたらすと信じること
- 祖先の霊が、生者と創造主との仲介者であると信じること
- 祖先が崇拝されないことによって、悪い結果が生じると信じること
- 死者の霊をなだめることができない場合、人々に不幸をもたらすかもしれないと信じること
- 祖先へ捧げる祈り
- 死んだ親族の霊に対する人身御供ひとみごくう
- 祖先に対して財物を捧げること
- 祖先の霊には、自然界に影響を与える力があると信じておこなう、祖先の霊をなだめるための礼拝行為
- 祖先の願いを聞くために、魔術師たぐいの類に占ってもらうことや意見を求めること



救世軍の立場の土台となるもの

救世軍の祖先崇拜への対応は、以下のような聖書の原則に基づいています。

1. 救世軍は、神のみが、宗教的礼拝にふさわしい、唯一の対象であると信じています。¹ 聖書は、主なる神以外の神を礼拝しないよう、わたしたちに命じています。² 祖先に対して、神に値するような畏敬の念を向けること、または、神だけが与えることができる何かを、先祖がわたしたちに提供できると考えることは、聖書の教えと対立するものです。
2. 救世軍は、イエス・キリストだけが神と人との仲介者であり、彼自身の犠牲が、神と人との隔たりを埋めるのに十分であることを信じています。「神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。」(テモテ 2:5)³ 死者は、生きている者と、神との仲介者となることはできません。

3. 文化は、人間の経験のために必要な情報を与え、それを豊かにするものではありませんが、文化的慣習や価値観が、聖書に優先されるべきではありません。救世軍人には、聖書の原則と調和しない慣行に対して挑戦する義務があります。⁴
4. 救世軍人は、祖先の霊が現在の世界に介入できる力を持っていると信じることを受け入れることはできません。また、死者をなだめる必要も、なだめられないことで何かが起こるかもしれない、と恐れる必要もありません。⁵ 「わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」(ローマ 8:38、39)

1 : 『救世軍教理ハンドブック』(救世軍出版供給部・原本は2010年発行) p.xv.

2 : 参照 特に出エジプト 20:3~6、マタイ 4:10 (＝ルカ 4:8)

3 : 参照 ヘブライ 7:24、25、9:11~15

4 : 『救世軍教理ハンドブック』 p.125、及び テモテ 2:3:16、17

5 : 他に、例えばコヘレト 9:10、イザヤ 8:19、申命 18:10、11、詩編 27:1、イザヤ 41:13



実際的な対応

救世軍は、すべての救世軍人に以下のように呼びかけます。

1. 祖先崇拜は、クリスチャンの生活と教えにふさわしいものではないことを認識します。
2. 死者を崇拜の対象と見なさない限り、故人の人生を、愛情を込めて思い出すことは、聖書の教えと矛盾するものではないことを受け入れます。
3. わたしたちのアイデンティティはキリストにあること、そしてイエス・キリストの福音は、聖書で確認されているように、恐れや迷信、誤った信仰、まやかしの希望からわたしたちを解放することを十分に理解します。
4. 死者に対する捧げものには、価値がないことを教えます。しかしながら、悲嘆に暮れる家族に対する実際的な支援を与えることの重要性を肯定します。それは、感謝の気持ちを込めて過去の世代を思い出し、祝うこと、また、若い世代に、彼らの継承している血筋を思い起こさせることです。
5. キリストの十字架上の犠牲が贖い^{あがな}のために十分なものであること、イエスが神と人の間の唯一の仲介者であることを他の人に教えます。
6. 対話によって、祖先崇拜に關与している救世軍人に助言を与えることを奨励します。
7. 祖先崇拜に關与している人々が、どんなことがあってもキリストとの個人的な関係を持ち、従順な信仰をもって生きるなら、その人は恐れて生きる必要がない、と理解できるよう助けます。
8. 祖先崇拜に關与している人々を排斥^{はいせき}しません。救世軍人は、關わるすべての人々に愛と恵み、配慮や生き方の矯正を示し続け、神との和解を促すよう求められています。





さらに学びを深めるための参考資料

聖書は祖先崇拝について何と告げているか（英文）

<https://www.gotquestions.org/ancestor-worship.html>

2017年1月大将によって承認

この国際的な見解表明は、提示する問題に関する救世軍の公式の見解で構成されています。万国本営の書面による明確な許可なく、いかなる方法でも修正または改訂することはできません。

